

能登半島内前におけるウスバシロチョウの採集例

嵯峨井淳郎・松井正人・吉村久貴・岩下泰子

能登産のウスバシロチョウに関しては、竹谷宏二氏(1981)¹⁾により、鳳至郡内前町猿山灯台付近にて本種の死体が発見されたニュースは記憶に新しい。

1982年5月16日、筆者ら4名は猿山産ウスバシロチョウを再確認すべく、鳳至郡内前町から輪島市にかけて生息調査を行った。内前町道下(じげ)より、海岸線沿いの農道へ入り、深見・六郎木・猿山・西田山と普通種の蝶の確認を行ないながらの調査は大成果をおさめ、まず、猿山灯台付近の逢瀬橋付近(標高約250m)にて約15頭、更に灯台から内前町深見に至る遊歩道にて、約25頭のウスバシロチョウを採集確認した。また、内前町から輪島市にかけての市町村境界線近くの薄野(すく)の標高約300m)においても、2頭のウスバシロチョウを目撃確認した。

採集して得た個体は全て筆者らが分割保管している。内前産の標本と石川県既知産地数ヶ所の標本とを比較検討した結果、開張寸法、白色鱗の散布度ともに大差なく、白色鱗の散布の濃淡はさまざまであり、天野勝広氏(1981)²⁾が述べている加賀産のものに比較して白色味が強い——という表現には、いささか疑問を感じる。

むしろ、我々の見解では、白山中富温泉周辺産のものの方が、白色鱗の散布の強いものが多く、かつ小型化の傾向が強いと判断している。

それらが遺伝的要素によるものなのか、環境因子によるものなのか等は、以前より議論されているが、未だ、結論が出ていないのは周知のとおりである。

食餌植物と思われるものについては、猿山・薄野両地共にムラサキケマンが発見確認された。

内前猿山における生息地の環境は、海岸線に非常に近いという特

徴から、石川県内他産地の「奥深い山」という印象とはいささか趣
を異にし、¹氷河期の残置種山というイメージは非常に淡い。
これで能登にウスバシロチョウが産するという裏付けがとれたこと
により、今後、更に綿密に能登地区における調査を推進すれば、よ
り興味ある知見が得られるであろう。

参考文献

- | | | | | |
|----|-------------|--------|--------|-------|
| *1 | 竹谷宏二 (1981) | とっくりばち | No. 46 | p. 10 |
| *2 | 天野勝広 (1981) | 新報 | No. 23 | p. 1 |
| | " (1981) | とっくりばち | No. 46 | p. 5 |

金沢市医王山産メスアカミドリシジミ雌の赤斑異常例

吉村 久貴

1980年秋に、金沢市医王山重山道路でサクラ類より採卵したメス
アカミドリシジミ2卵より、赤斑が異常に発達し、下翅中央にまで
赤斑の現出した異常型の♀が羽化したので報告する。



1

2

写真 (1) 金沢市医王山産 1978年7月2日 採集 吉村久貴
(2) " (飼育) 1981年5月13日 羽化 "

メスアカミドリシジミの♀の翅表の赤色斑には変異が多く、関東、中部以北では赤色斑が大型で連続しているが、近畿以西では、赤色斑が2〜3に分割し、小型化した個体が多くなることが知られている。(※1)

今回羽化した個体は、前翅の赤色斑が異常に発達し、かつ後翅の中央部と尾状突起のつけ根に鮮かな赤色斑が現出している。採卵した2卵のうちもう1卵は、1♂が羽化した。

採卵データ	1980.11.23	金沢市医王山重山道路	2卵
飼育データ	16	19	
ふ化	1981.3.24	1981.3.25	
蛹化	" 4.19	" 4.21	
羽化	" 5.9	" 5.13	

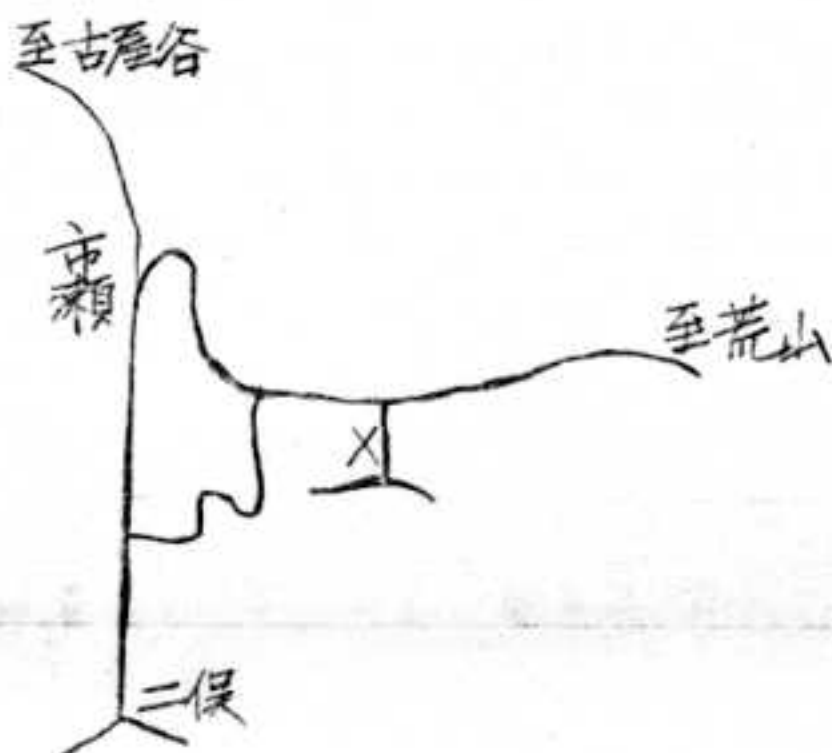
なお、本誌上への発表をお奨め下さった金沢大学がん研究所、野中 勝博士に感謝します。

(※1) 日本産蝶類大図鑑 藤岡 知夫 講談社(1975)

石川県産オオヒカゲの新産地

松井 正人

1982年5月22日、金沢市二俣でオオヒカゲ幼虫5羽を採集し、他にも数匹を確認した。スゲの名前はわからないが、通称“シソカリスゲ”である。



このスゲのある所は、山際の相当古い休耕田らしく、10m以上にも伸びたハンノキがあり、絶えず山より清水が流れ込んでおり、長靴はきでないと中へ入れない。能登には普通に見られるオオヒカゲも金沢近郊では珍らしく、他にも数ヶ所スゲのある地点を調査したが、オオヒカゲは見できなかった。

内前町西田山にてオオヒカゲ幼虫を確認

吉村 久貴

園至郡内前町西田山にて、スゲの一種よりオオヒカゲの幼虫を30頭採集確認したので、新産地として記録しておく。
なお、得られた幼虫は全て筆者が飼育し、13日に羽化した。羽化標本は、吉村、嵯峨井が分割保管している。

内前町の雑蝶若干

嵯峨井 淳郎

1982年5月16日、能登産ポルシウスの調査の折、見かけた雑昆虫数種を記録しておく。記録協力は、岩下泰子、吉村久貴、松井正人氏の独身族である。

園至郡内前町深見

アオスアゲハ、カラスアゲハ、ツマキチョウ、モンキチョウ、スジグロシロチョウ、
ベニシジミ、ヤマトシジミ、ルリシジミ、アカタテハ、
他、未確定のサナエトノボ

〃 〃 大郡木

キアゲハ、キチョウ、ミヤマセセリ、エミスジ
ニフハシミョウ

〃 〃 横山

キアゲハ、オキアゲハ、カラスアゲハ、ミヤマカラスアゲハ(♀)
ツマキチョウ、スジグロシロチョウ、ミヤマセセリ(汚)、イチモンジセセリ、
ベニシジミ、ヤマトシジミ、トラフシジミ、ツバメシジミ、
サカハチチョウ、エミスジ、ヒメオドリコソウ

金沢市熊走にて白化異常型ウスバシロチョウを採集

嵯峨井 淳郎

一般に日本海沿岸に産するウスバシロチョウは、白色鱗の散布が弱く、おかでも北陸地方に産するものは特に黒化が顕著であるとされている。

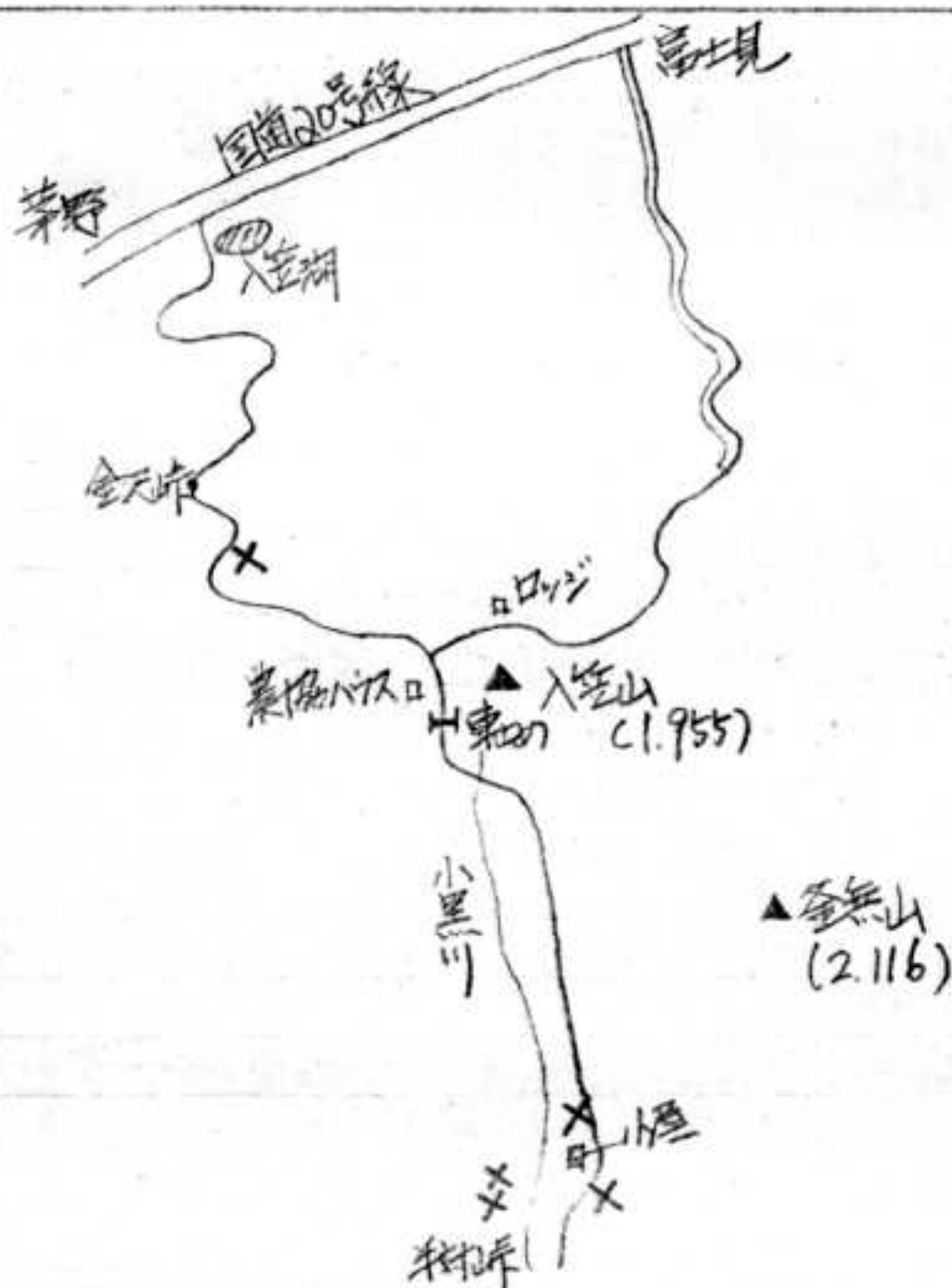
1982年5月9日、金沢市内の多産地である熊走にて得た30個体のうち、特に白化が著しい個体が1羽混入していたので、一応変異の記録として報告しておく。

金沢市在住の吉岡象氏より恵手された、金沢産のものや、井沢国雄氏恵与の長野県木曽産のものに比較しても、より白色味が強く、飛翔中のこの個体を目撃したとき、何か別種かと思えた程であった。

1981年度採集手記お 其の2

長野県入笠山ヒメギフ採集記

吉村 久貴



ヒメギフチョウが長野県下に広く分布していると人に聞いてから久しいが、なんとなくして自分の手でヒメギフをネットしたいと、はるばる長野県上伊那郡入笠山まで出かけた。

金沢よりトンボ帰りしてきた吉岡氏と共に、1981年5月2日(土)に、金沢を出発。2日の日は、松本のM氏のヒコに泊めてもらい、翌5月3日、入笠山に向った。松本より塩尻峠を越え、国道20号線より右手に入る入笠山だが、金沢峠を通る細い道より入笠山頂を目指した。途中、金沢峠を過ぎたあ

たりで、路上を飛んでいる1♂を吉岡氏が採集したが、あたりには他に成虫は見られず、入笠山頂に向かう。

山頂付近は、標高2,000m近くもあることもあって、未だ木々の芽吹きもほとんどなく、殺風景で、蝶など何も飛んでいない。ここで、松井氏より御教示いただいた半対岸方面に向かう。

道を小黒川沿いに下る。(農協ハウスがポイント) 車止めより、徒歩で小一時間の路上で、1♂を採集した。

伐残された斜面を見上げると、採集者が数名見られたので、小黒川の対岸のクマザサのあいしげる。人の入らないような斜面で、ヒメギフを搜した。

約一時間位で、吉岡氏2♂、筆者2♂1♀を採集したが、当日はどんよりとした曇り空で、あまり成果は上がらなかった。

帰路は入笠山頂より富士見所の方へ下る舗装路を通ったが、ハヤ岳が目の前にくっきりと浮かび上がり、すい野がボケて広がっている様は、とてもきれいだった。

なお、現地の標高は1,600m前後で、5月に入ってからきれいな成虫が羽化するようであった。また、松井氏談では、雪の影響もほとんど受けずに、発生時期が一定しているようである。

採集データ 1981.5.3

長野県上伊那郡入笠山

ヒメギフチョウ

2♂1♀

採集者

吉村 久貴

越冬クダウ

3♂

吉岡

泉

1♀

森川

精二

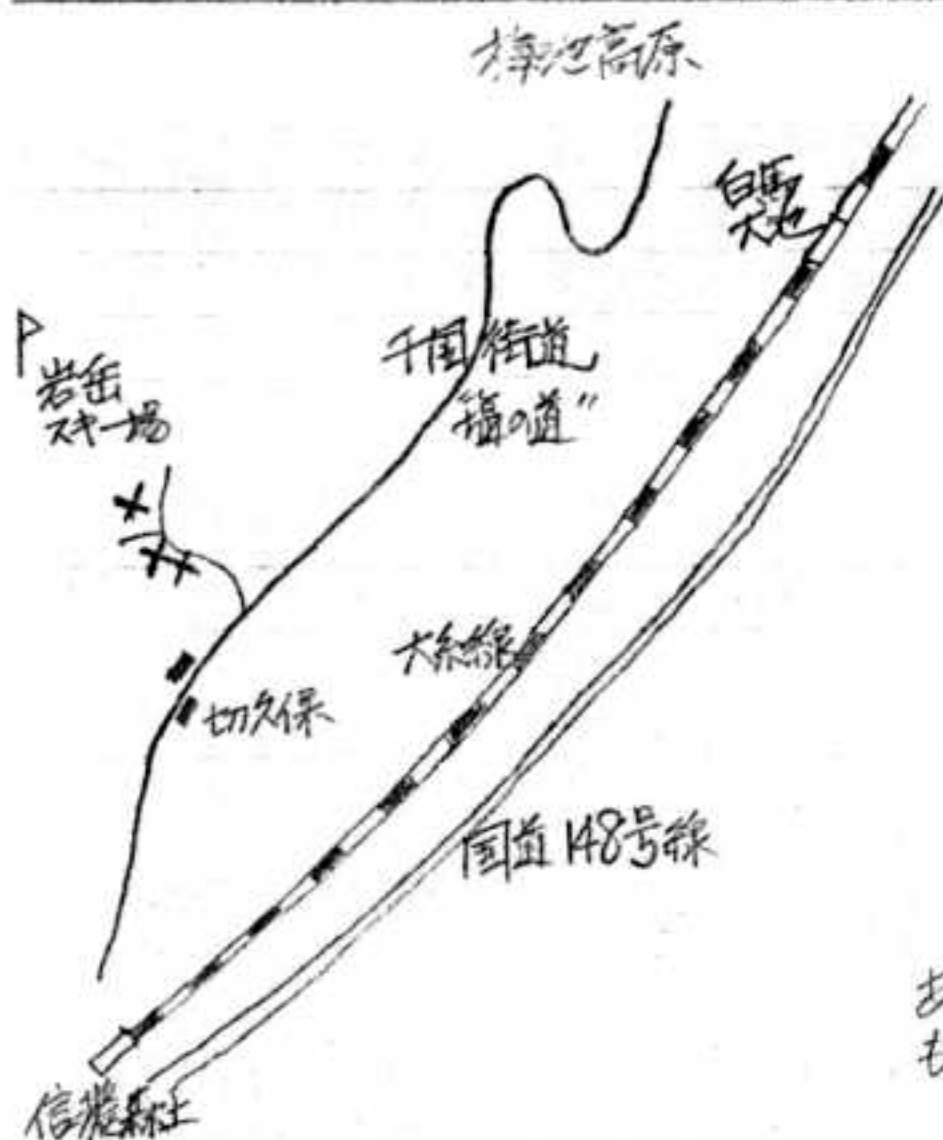
1981年度 採集手記刊 4の3

長野県北安曇郡白馬村切久保

吉村 久貴

1981年7月12日、筆者ら一行は、北アルプス朝日岳のすい野にある白高地沢(新潟県糸魚川市)を目指していたが、兵馬平(ひまのだいら)を過ぎたところの瀬戸川のモッコ渡しがないことを確認後、すすぎと蓮華温泉までひき返して、やや時期の遅いかと思われる白馬村切久保のアサマシジミの採集に向った。

子岡街道塩の道に、信濃森上より入り、切久保の部落を過ぎたところで岩岳スキー場下のペンションなどに通じる砂利道に入る。砂利道に、200m程入ったあたりから、既にアサマシジミは大量に発生していた。



このポイントは、嵯峨井氏より、御教示いただいたものであるが、このアサマシジミは、大型で黒っぽい部分が多く、地色もどす黒い藍色をしている。

道端にも、小川沿いにも食草と思われるエビラフジが繁茂していて、ちようびの花期にあたり、アサマシジミは、濃紫色の花で吸蜜していた。

その他、ヒメシジミの発生後期にあたり、たくさんのヒメシジミのボロも確認した。

また、ハナトラオで吸蜜しているヒョウモン類の姿も多く見られ、ホシミスジの滑空している姿も見られた。

だいたい、次の様な蝶が見られ、一部を採集した。

採集データ 1981.7.12
アサマシジミ 17♂ 6♀
ヒョウモンモドキ 1ex
ミドリヒョウモン 1♂
ホシミスジ 2♂♂
ヒメウライミジメ 1ex

長野県北安曇郡白馬村切久保

ヒメシジミ 1♂
ヒョウモン 2ex
フジヤフチャウ 1♂
フタスジ4ヨウ 1ex

(吉村久貴 or 吉村貴己採集)

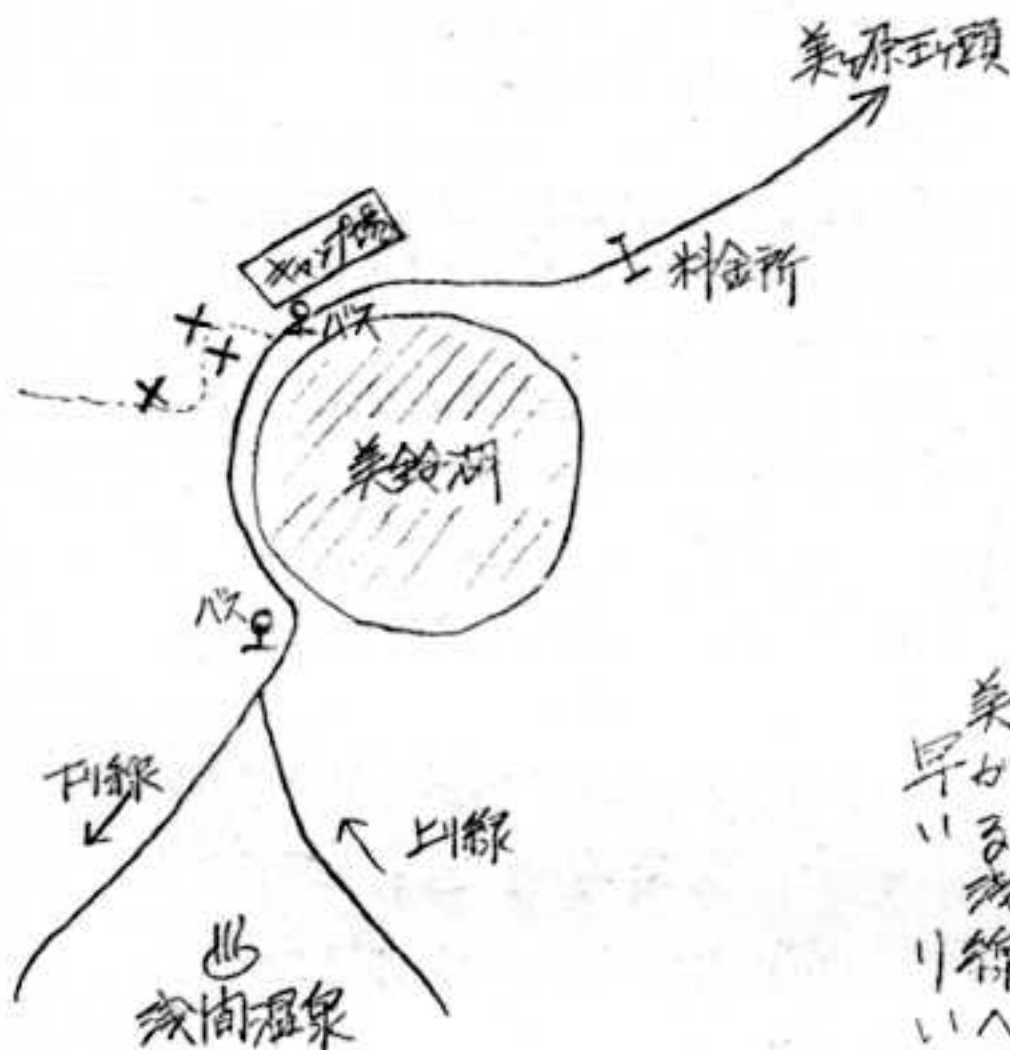
また、同行した吉岡 泉氏も、ほぼ、同様なものを採集している。

— 追記 —

なお、白高地沢(新潟県糸魚川市)に至るはずであった朝日岳登山ルートは、瀬戸川モッコ渡しは、廃止され、モッコ渡し地点のやや下流に鉄筋の橋がかけられたようです。これにより朝日岳登山ルートは糸馬峠より分岐し、モッコ渡し地点より下流の橋を渡ったのち、もとの登山ルートと合流するといった具合に変更になりました。

松本市美鈴湖採集記

吉村 久貴



松本市の東に位置する美ヶ原に至るバス路線は2本あり、いずれも松本駅を出発するが、一つは駒越(こまごし)林道を経由して短時間のうちに美ヶ原山頂に至り、もう一つは、美ヶ原山、浅間山と、この美鈴湖を通過して有料道路経由で美ヶ原高原に至る。

美鈴湖は、冬はスケートリンクに早変わりし、夏はボートが浮かんでいるといったのどかなところである。浅間温泉から美鈴湖への道は、上り線と下り線に分かれているが、細いヘアピンの続く道を10分程で到着する。

筆者ら一行は、1981年7月18日に、浅間山塊のアサマモンギョウの確認のため、美鈴湖へ立ち寄った。

筆者にとって、美鈴湖は非常に懐かしい所で、中学校2年の夏に、美ヶ原方面に旅行した帰途に、幼なかつた弟と共に、音頭種をいくつか採集した思い出がある。1973年頃のことだと思うが、サカハチクウヤジャノメクウ、アカトンボなどを採ったと憶えている。

1981年7月18日も、以前と同じところの、キャンプ場より下っていく砂利道でいく種を採集した。

クジャククウ、ルリタテハは路上で陽を浴びたりしていたし、シータテハ、スダテハ、エルタテハは、木の葉上で占有行動をとっていた。

タテハクウ科のクウは、午後遅くまで(18時頃まで)、活発に活動していた。採集したものは、以下のものである。

という番組が放映された。俳優岸田森
のレポートはもので中々素晴らしい。た。

ちなみに、岸田森氏は芸能界のムシとい
うことでかなり以前知られ、TBS-TBS
などにも時々登場してくる。

岸田氏などは、この番組を愛蔵大頼ん
でビデオに撮ってもらい、あとでゆくりみたり。

◆8月某日、月刊むし138号に「ナリキバ」
アミキシタバの食樹に関する杉繁郎氏
の執筆された興味ある記事が掲載され
ている。Catocala屋はがぜんムスルを

はじめ、自山田氏にナリキバなどを求め
て目録した方がいると聞いている。

◆8月12日(木) 野中勝氏、カカラヤ
シタホコノ夢ばかり見て、大阪の夜は眠
りたくいらい、(ホオはオミサンヤミツ
ル坊の夢ばかり見るのだから)、それぞれ
とに帰沢された。

◆8月13日(金) 早速野中氏とナリキバ
は、白峰、市瀬、尾添、一里野、中宮温
泉と木銀灯下を総点検したのだ。成景
は、ジャジャーン。かくして石川泉のナリ
キバが採れたのだ。ナリキバ。

目 次

能登半島内前におけるウスバシロキョウの採集例	-----	嵯峨井淳郎・松井正人・吉村久貴・若下泰子	1
金沢市匠王山産メスアカミドリジミの赤斑異常例	-----	吉村久貴	2
石川県産オオヒカゲの新産地	-----	松井正人	3
内前町西岡山にてオオヒカゲ幼虫を確認	-----	吉村久貴	4
内前町の雑蝶若干	-----	嵯峨井淳郎	4
金沢市熊走にて白化異常型ウスバシロキョウを採集	-----	嵯峨井淳郎	5
1981年度採集手記の2 長野県入笠山ヒメギフ採集記	-----	吉村久貴	5
〃 〃 〃の3 長野県北安曇郡白馬村七久保	-----	吉村久貴	6
〃 〃 〃の4 松本市美鈴湖採集記	-----	吉村久貴	8
会員の動き・しやばの動き	-----	ナリキバ	9

第 32 号

1982年10月31日(土)発行

発 行： 金沢市三日新町4-9-33 松井正人方 百万石蝶談会

校正・編集： 吉村久貴